



## 江別脳外ふれあい通信 No.1



院長の高村です。今後当院では、地域の皆様に医療情報を提供するため、職員が協力し合い、定期的に、手作りのパンフレットを作成していく事にいたしました。皆さんは脳神経外科というと、どんなイメージをお持ちですか？脳神経外科というと、「怖い」「敷居が高い」「よく内容がわからない」「救急車で運ばれる所」といったイメージがあり受診を躊躇させている原因になってはいないでしょうか。実際、「急に手足が動かなくなった」「言葉がしゃべれなくなった」「意識がなくなった」など命に関わる急病で脳神経外科を受診される方もいらっしゃいますが、頭痛がする、めまいがする、手がしびれる、物忘れをする、頭を打って心配、といったごく日常的な訴えを持つ方が多く、大きな病院ではよく話を聞いてもらえないと言った声を耳にします。また、何気ない症状だからといって、受診を躊躇していると、後々大変な事になる事も決してまれな事ではないのです。当院では、「患者さんの話をよく聞く事」、「診察に当たっては可能な限り分かりやすく説明する」をモットーに地域に根ざしたクリニックを目指しております。

### 脳卒中ってどんな病気？

さて、今回は脳卒中についてのお話です。よく診察室で、「先生、私、あつたのではないですか」と言われる事があります。脳卒中は、卒=にわか、中=あたる（手足の麻痺）と言う意味です。昔は、中風、中気などと言われましたように、悪い風に当たって突然に手足が動かなくなると言う意味です。しかし、医学が発展した現在、脳卒中が、悪い風に当たって起こる病気と考えている方はおられないでしょう。日本脳卒中協会のアンケートによると、一般の人が脳卒中に対して抱くイメージは、「後遺症が残る(57%)、介護が大変(42%)、悲惨(30%)、治療法がない(7%)」と大変暗いものでした。しかし、このイメージは、必ずしも正しくありません。脳卒中は十分に予防可能ですし、最新の治療で後遺症をほとんど残さずに社会・家庭復帰している患者さんも増えているからです。最善の脳卒中对策が「予防」であることは言うまでもありません。そのためには、脳卒中に対して、正しい知識を持つ事が大切です。それが、恐ろしく、しかも暗い病気であると思われる「脳卒中」を克服する第一歩なのです。

脳卒中（脳血管障害）は、「脳の血管が破れたり、詰まったりして起こる病気」です。血管が破れるタイプは頭蓋内出血と呼ばれ、脳内出血と、くも膜下出血があります。血管が詰まるタイプが脳梗塞であり、原因によってラクナ梗塞、アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓症に分けられます。

## 脳卒中の種類

### 1) 脳内出血

高血圧などの影響で脳内の細い動脈（穿通動脈）がもろくなって、脳の中に出血するものです。

### 2) くも膜下出血

脳動脈にできたこぶ（脳動脈瘤）が破れて、脳の表面（くも膜下腔）に出血するものです。くも膜下出血が起こると、猛烈な頭痛と吐き気、おう吐を伴い、多くはそのまま意識を失ってしまいます。

### 3) ラクナ梗塞

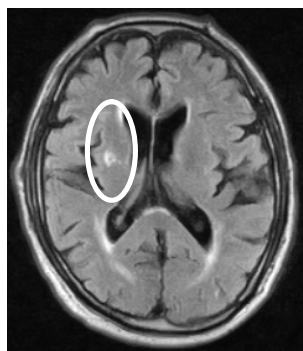
脳の深いところにある直径 1mm 以下の細い血管がつまるものです。高血圧を持っている高齢者に多いタイプです。命の危険はありませんが、後遺症が残存してしまう事もあります。

### 4) アテローム血栓性脳梗塞

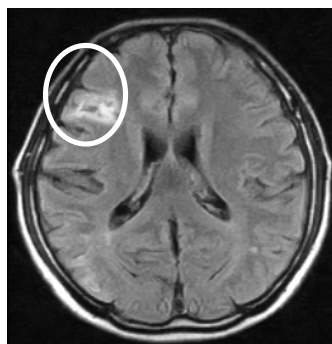
動脈硬化により頭蓋内の比較的太い血管が狭くなっていき、狭くなった血管内腔の壁は不整なため血液中の血小板がこびりつき、さらに硬くなりさらに狭くなっていき最後は閉塞に至るものです。多くは高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病が原因となります。

### 5) 心原性塞栓症

通常心臓は一定のリズムで拍動しているため血液はよどみなく流れます。この状態で血液の固まり（血栓）ができることはありません。しかし不整脈があると一定のリズムで拍動しないために心臓の中で血液が一瞬止まりよどんだ状態になります。もともと血液は固まる要素を持っているので心臓のなかで血液の固まり（血栓）ができて血液の流れに乗って脳血管に飛んで血管をつめてしまうものです。



ラクナ梗塞



アテローム血栓性梗塞



MRA による脳動脈瘤描出

## 江別脳神経外科

江別市中央町 1 - 1 2 ( 3 番通り沿い )

TEL(011)391-3333 FAX(011)391-3311

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00 ~ 12:00						
午後 2:00 ~ 6:00				/	/	/

